

3類型	鋳工業品の生産に係る技術	通巻番号	5-19-015
地域資源名	撚糸製品、手袋・靴下、ニット、パイル織物	認定日	平成19年10月12日
地域	和歌山県橋本市	所管省庁	経済産業省

事業名：特殊な撚糸技術を生かした耐熱手袋、耐熱織物生地、耐熱ニット生地の製造、販売及び用途開発を行う。

会社名：林撚糸株式会社

所在地：和歌山県橋本市高野口町名倉879番地

連絡先：TEL：0736-42-3205

H P： —

FAX：0736-43-0784

事業概要(新たな活用の視点)

- ・和歌山県橋本市は織物、パイル織物を主に、手袋・靴下、ニット、衣料縫製品等多種多様の繊維産業が広がっており、それらを取り巻く撚糸業、染色業、縫製業等により一大繊維産地を形成している。
- ・しかしながら、中国を主力とした輸入品に押されてパイル織物などは売上が全盛期の1/6まで落ち込んでいる。
- ・一方、大手鉄鋼会社より溶接工が軍手を用いて火傷をする場合があるため、耐熱の手袋が出来ないかと提案があった。
- ・そこで、平成17年1月多量の空気を含ませる特殊撚糸技術を活用し、試作第1号を完成。更なる高度な性能を有する耐熱製品、耐熱素材を開発する。



【溶接現場風景】

売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

◆競争力

- ・綿軍手は、価格が安く3枚重ねで半日使用する場合もあり、使い捨てであるが、火は貫通するため火傷をすることもある。また産業廃棄物としての廃棄費用が必要となる。革手袋は1日使用するが、通気性が悪いため不衛生であり、また廃棄処理が高額負担となる。
- ・当社製品は高価な耐熱繊維を使用しているが、価格は他社の耐熱繊維使用手袋の半値程度であり、通気性も良く洗濯も可能である。

◆市場性

- ・軍手は年間約3億9千双消費され、その約1/3が耐熱が必要とされる環境で使用されている。

◆販路

- ・一般向けにはホームセンター等に置き、他の手袋と差別化する。また、耐熱手袋を必要とする現場等に直接販売する。



【試作サンプル】



【ガスコンロ、炭による耐熱性実験の様子】

地域資源における関係事業者との連携

- ・手袋の生産能力を超える部分については、当該地域内の協力工場との連携を図り、また、織物、ニットについては、当地域内での外注をとし、各協力工場との連携を図る。